

**令和3年度
長久手市 財務書類分析報告書**

令和5年3月

目次

1	地方公会計の整備について.....	3
2	財務書類の作成について.....	4
2. 1	財務書類の体系.....	4
2. 2	作成単位.....	4
2. 3	会計処理.....	5
2. 4	作成基準日.....	5
3	財務4表分析.....	6
3. 1	貸借対照表 (BS)	6
3. 2	行政コスト計算書 (PL)	8
3. 3	純資産変動計算書 (NW)	9
3. 4	資金収支計算書 (CF)	11
4.	指標分析 (一般会計等)	12
4. 1	財務書類分析の視点.....	12
4. 2	資産形成度.....	12
4. 3	世代間公平性.....	13
4. 4	持続可能性 (健全性)	14
4. 5	効率性.....	14
4. 6	自律性.....	15

1 地方公会計の整備について

地方公共団体の会計は、国の会計と同じく、住民から徴収された対価性のない税財源の配分を、議会における議決を経た予算を通じて事前統制の下で行うという点で、営利を目的とする企業会計とは根本的に異なっています。すなわち、税金を活動資源とする国・地方公共団体の活動は、国民・住民福祉の増進等を目的としており、予算の議会での議決を通して、議会による統制の下に置かれているため（財政民主主義）、国・地方公共団体の会計では、予算の適正・確実な執行に資する観点から、現金の授受の事実を重視する現金主義が採用されているところです。

一方で、国・地方を通じた厳しい財政状況の中で、財政の透明性を高め、国民・住民に対する説明責任をより適切に果たし、財政の効率化・適正化を図るため、地方公会計は、発生主義により、ストック情報やフロー情報を総体的・一覽的に把握することにより、現金主義会計による予算・決算制度を補完するものとして整備が進められてきました。

特に、平成 18 年度には、総務省に「新地方公会計制度研究会」が設置され、当該研究会における検討を踏まえ、地方公共団体に対し、新地方公会計モデル（基準モデル及び総務省方式改訂モデル）を示してその整備が要請されていました。

このような状況の下で、長久手市においては、平成 20 年度より総務省方式改訂モデルによる財務書類の作成を行ってまいりました。

地方公会計においては、現金主義会計では見えにくいコストやストックを把握することで、中長期的な財政運営への活用の充実が期待できることや、そのような発生主義に基づく財務書類を、現行の現金主義会計による決算情報等と対比させて見ることにより、財務情報の内容理解が深まるものと考えられます。

また、個々の地方公共団体における地方公会計整備の意義としては、住民や議会等に対し、財務情報をわかりやすく開示することによる説明責任の履行と、資産・債務管理や予算編成、行政評価等に有効に活用することで、マネジメントを強化し、財政の効率化・適正化を図ることが挙げられます。さらに、地方公会計の整備は、個々の地方公共団体だけでなく、地方公共団体全体としての財務情報のわかりやすい開示という観点からも必要があるものです。

今後、更なる地方公会計の整備促進を図るためには、すべての地方公共団体において適用できる標準的な基準を示すことが必要であるとして、総務省に設置された「今後の新地方公会計の推進に関する研究会」において議論が進められてきましたが、平成 26 年 4 月 30 日に取りまとめられた報告書において、財務書類の作成に関する統一的な基準が示されました。その後、平成 27 年 1 月 23 日総務大臣通知において、全ての地方公共団体において、統一的な基準による財務書類等を原則として平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 年間で作成するように要請されました。

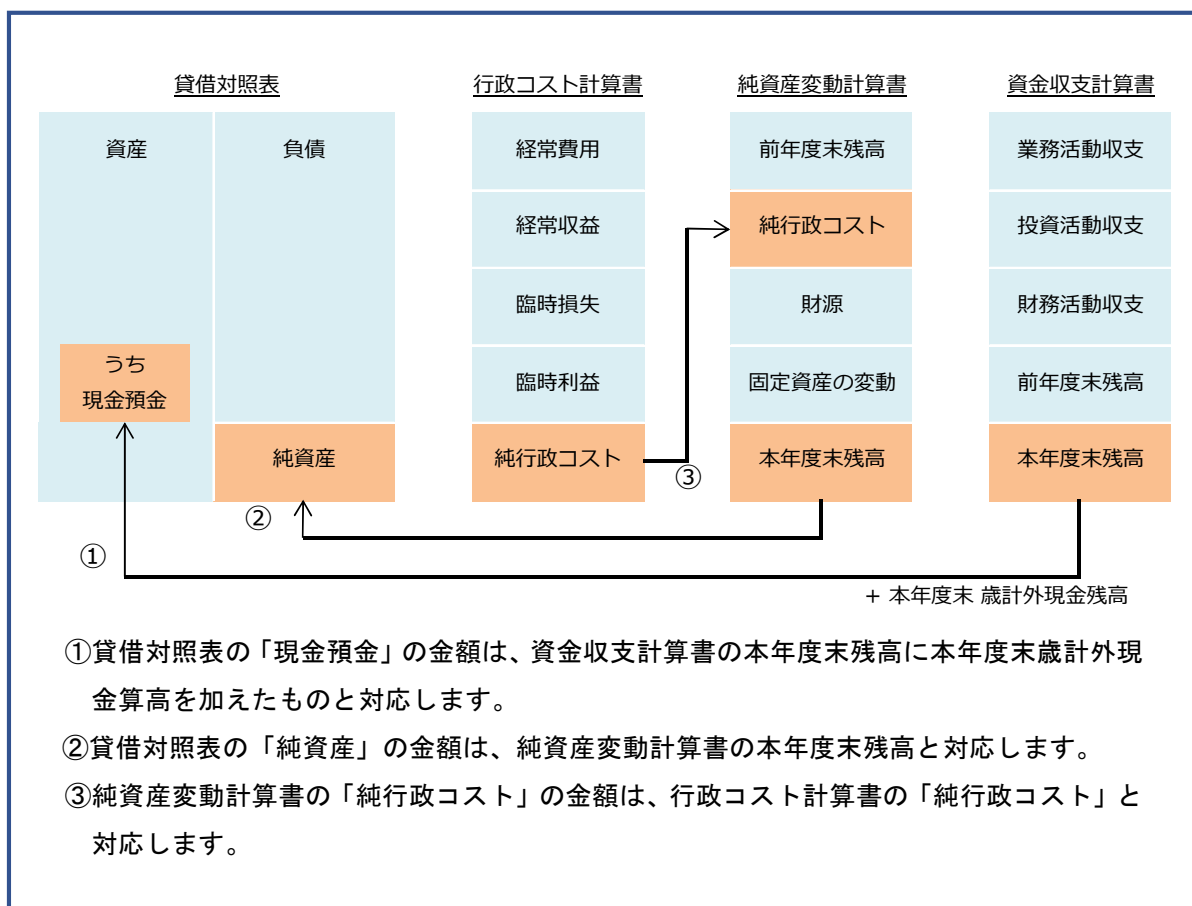
したがって、長久手市では平成 28 年度より、統一的な基準による財務書類を作成しています。

2 財務書類の作成について

2. 1 財務書類の体系

財務書類の体系は、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書及びこれらの財務書類に関連する事項についての附属明細書とします。

財務書類4表の相互関係は下図のとおりです。



2. 2 作成単位

作成単位は、一般会計等を基礎とし、さらに一般会計等に地方公営事業会計を加えた全体財務書類、全体財務書類に地方公共団体の関連団体を加えた連結財務書類とします。

一般会計等、全体及び連結財務書類の対象となる会計（団体）は、次のとおりです。

一般会計 土地取得特別会計 卯塚墓園事業特別会計	一般会計等 財務書類	全体財務書類	連結財務書類
国民健康保険特別会計 介護保険特別会計 後期高齢者医療特別会計 公園西駅周辺土地区画整理事業特別会計 下水道事業会計			
愛知中部水道企業団 尾張東部衛生組合 公立陶生病院組合 愛知県市町村職員退職手当組合 愛知県後期高齢者医療広域連合 尾張土地開発公社 株式会社長久手温泉 尾三消防組合			

2. 3 会計処理

公会計に固有の会計処理も含め、総勘定元帳等の会計帳簿から誘導的に作成します。

2. 4 作成基準日

財務書類の作成基準日は、会計年度末（3月31日）とします。ただし、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数とします。

3 財務4表分析

3. 1 貸借対照表 (BS)

令和3年度末における、長久手市の貸借対照表はつぎのとおりです。

(単位：百万円)

科目	[一]一般会計等		[全]全体会計		[連]連結会計	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
【資産の部】						
固定資産	119,844	97.3%	147,888	97.4%	163,862	96.6%
有形固定資産	114,867	93.3%	141,926	93.5%	155,193	91.4%
事業用資産	46,922	38.1%	46,922	30.9%	49,182	29.0%
土地	25,451	20.7%	25,451	16.8%	25,949	15.3%
建物	20,332	16.5%	20,332	13.4%	21,794	12.8%
工作物	1,054	0.9%	1,054	0.7%	1,353	0.8%
その他	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	85	0.1%	85	0.1%	86	0.1%
インフラ資産	67,221	54.6%	91,948	60.6%	101,147	59.6%
土地	45,814	37.2%	51,527	34.0%	51,866	30.6%
建物	34	0.0%	1,151	0.8%	1,258	0.7%
工作物	21,230	17.2%	39,116	25.8%	47,698	28.1%
その他	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	143	0.1%	154	0.1%	325	0.2%
物品	723	0.6%	3,056	2.0%	4,864	2.9%
無形固定資産	35	0.0%	38	0.0%	42	0.0%
投資その他の資産	4,942	4.0%	5,924	3.9%	8,627	5.1%
投資及び出資金	550	0.4%	550	0.4%	591	0.3%
投資損失引当金	-	-	-	-	-	-
長期延滞債権	38	0.0%	72	0.0%	77	0.0%
長期貸付金	-	-	-	-	2	0.0%
基金	4,360	3.5%	5,314	3.5%	7,897	4.7%
その他	-	-	-	-	71	0.0%
徴収不能引当金	-6	0.0%	-11	0.0%	-11	0.0%
流動資産	3,299	2.7%	3,882	2.6%	5,842	3.4%
現金預金	1,577	1.3%	2,038	1.3%	3,562	2.1%
未収金	43	0.0%	161	0.1%	474	0.3%
短期貸付金	-	-	-	-	-	-
基金	1,685	1.4%	1,685	1.1%	1,703	1.0%
棚卸資産	-	-	14	0.0%	119	0.1%
その他	-	-	-	-	3	0.0%
徴収不能引当金	-7	0.0%	-16	0.0%	-19	0.0%
資産合計	123,144	100.0%	151,770	100.0%	169,705	100.0%

(単位：百万円)

科目	[一]一般会計等		[全]全体会計		[連]連結会計	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
【負債の部】						
固定負債	10,103	8.2%	23,198	15.3%	31,834	18.8%
地方債等	9,444	7.7%	14,208	9.4%	16,180	9.5%
長期未払金	-	-	-	-	-	-
退職手当引当金	655	0.5%	642	0.4%	3,332	2.0%
損失補償等引当金	-	-	-	-	-	-
その他	4	0.0%	8,347	5.5%	12,322	7.3%
流動負債	1,351	1.1%	2,636	1.7%	3,423	2.0%
1年内償還予定地方債等	791	0.6%	1,909	1.3%	2,063	1.2%
未払金	-	-	158	0.1%	499	0.3%
未払費用	-	-	-	-	12	0.0%
前受金	-	-	-	-	5	0.0%
前受収益	-	-	-	-	-	-
賞与等引当金	289	0.2%	299	0.2%	390	0.2%
預り金	270	0.2%	270	0.2%	369	0.2%
その他	1	0.0%	1	0.0%	86	0.1%
負債合計	11,455	9.3%	25,834	17.0%	35,257	20.8%
【純資産の部】						
固定資産等形成分	121,530	-	149,573	-	165,566	-
余剰分（不足分）	-9,841	-	-23,637	-	-31,179	-
他団体出資等分	-	-	-	-	61	-
純資産合計	111,689	90.7%	125,936	83.0%	134,447	79.2%
負債及び純資産合計	123,144	100.0%	151,770	100.0%	169,705	100.0%

※記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略して表示しています。

3. 2 行政コスト計算書 (PL)

令和3年度における、長久手市の行政コスト計算書はつぎのとおりです。

(単位：百万円)

科目	[一]一般会計等		[全]全体会計		[連]連結会計	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
経常費用	21,679	105.3%	28,845	110.1%	35,906	118.3%
業務費用	12,276	59.6%	14,170	54.1%	18,268	60.2%
人件費	4,548	22.1%	4,668	17.8%	6,149	20.3%
職員給与費	2,819	13.7%	2,891	11.0%	4,129	13.6%
賞与等引当金繰入額	289	1.4%	297	1.1%	397	1.3%
退職手当引当金繰入額	218	1.1%	218	0.8%	303	1.0%
その他	1,222	5.9%	1,262	4.8%	1,320	4.3%
物件費等	7,524	36.5%	9,099	34.7%	11,411	37.6%
物件費	4,841	23.5%	5,535	21.1%	7,091	23.4%
維持補修費	422	2.0%	508	1.9%	671	2.2%
減価償却費	2,261	11.0%	3,056	11.7%	3,596	11.8%
その他	-	-	-	-	53	0.2%
その他の業務費用	203	1.0%	403	1.5%	708	2.3%
支払利息	53	0.3%	153	0.6%	169	0.6%
徴収不能引当金繰入額	7	0.0%	13	0.1%	14	0.0%
その他	143	0.7%	238	0.9%	525	1.7%
移転費用	9,403	45.7%	14,675	56.0%	17,637	58.1%
補助金等	4,267	20.7%	6,168	23.5%	4,248	14.0%
社会保障給付	3,624	17.6%	8,502	32.5%	13,347	44.0%
他会計への繰出金	1,507	7.3%	-	-	-	-
その他	4	0.0%	5	0.0%	42	0.1%
経常収益	1,029	-5.0%	2,609	-10.0%	5,495	-18.1%
使用料及び手数料	308	-1.5%	1,011	-3.9%	3,223	-10.6%
その他	722	-3.5%	1,598	-6.1%	2,272	-7.5%
純経常行政コスト	20,649	100.3%	26,236	100.1%	30,411	100.2%
臨時損失	37	0.2%	58	0.2%	59	0.2%
臨時利益	94	-0.5%	94	-0.4%	119	-0.4%
純行政コスト	20,591	100.0%	26,200	100.0%	30,351	100.0%

※記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略して表示しています。

3. 3 純資産変動計算書 (NW)

令和3年度における、長久手市の純資産変動計算書はつぎのとおりです。

(単位：百万円)

	科目	合計	固定資産等 形成分	余剰分 (不足分)
	〔一〕 一般会計等	前年度末純資産残高	109,672	120,560
純行政コスト (△)		-20,591		-20,591
財源		20,858		20,858
税収等		14,500		14,500
国県等補助金		6,358		6,358
本年度差額		267		267
固定資産等の変動 (内部変動)			-781	781
有形固定資産等の増加			1,113	-1,113
有形固定資産等の減少			-2,362	2,362
貸付金・基金等の増加			1,054	-1,054
貸付金・基金等の減少			-586	586
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	1,750	1,750		
その他	-	-	-	
本年度純資産変動額	2,017	970	1,047	
本年度末純資産残高	111,689	121,530	-9,841	
〔全〕 全体会計	科目	合計	固定資産等 形成分	余剰分 (不足分)
	前年度末純資産残高	123,507	149,414	-25,907
	純行政コスト (△)	-26,200		-26,200
	財源	27,202		27,202
	税収等	17,197		17,197
	国県等補助金	10,005		10,005
	本年度差額	1,003		1,003
	固定資産等の変動 (内部変動)		-1,243	1,243
	有形固定資産等の増加		1,417	-1,417
	有形固定資産等の減少		-3,179	3,179
	貸付金・基金等の増加		1,129	-1,129
	貸付金・基金等の減少		-610	610
	資産評価差額	-	-	
	無償所管換等	1,402	1,402	
その他	24	-	24	
本年度純資産変動額	2,429	160	2,270	
本年度末純資産残高	125,936	149,573	-23,637	

〔連〕連結会計	科目	合計	固定資産等 形成分	余剰分 (不足分)	他団体 出資等分
	前年度末純資産残高	131,494	164,348	-32,923	69
	純行政コスト(△)	-30,351		-30,330	-21
	財源	31,800		31,787	13
	税収等	17,352		17,352	-
	国県等補助金	14,448		14,435	13
	本年度差額	1,449		1,457	-8
	固定資産等の変動(内部変動)		-264	264	
	有形固定資産等の増加		2,935	-2,935	
	有形固定資産等の減少		-3,770	3,770	
	貸付金・基金等の増加		1,239	-1,239	
	貸付金・基金等の減少		-668	668	
	資産評価差額	-	-		
	無償所管換等	1,402	1,402		
	他団体出資等分の増加			-	-
	他団体出資等分の減少			-	-
	比例連結割合変更に伴う差額	53	80	-27	-
	その他	50	-	50	-
	本年度純資産変動額	2,954	1,218	1,744	-8
	本年度末純資産残高	134,447	165,566	-31,179	61

※記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略して表示しています。

3. 4 資金収支計算書 (CF)

令和3年度における、長久手市の全体資金収支計算書はつぎのとおりです。

(単位：百万円)

科目	[一]一般会計等	[全]全体会計	[連]連結会計
	金額	金額	金額
【業務活動収支】			
業務支出	19,408	25,673	32,094
業務費用支出	9,776	10,761	14,186
人件費支出	4,317	4,437	5,859
物件費等支出	5,263	6,007	7,752
支払利息支出	53	153	169
その他の支出	143	165	406
移転費用支出	9,632	14,911	17,908
補助金等支出	4,496	6,405	4,519
社会保障給付支出	3,624	8,502	13,347
他会計への繰出支出	1,507	-	-
その他の支出	4	5	42
業務収入	21,769	29,450	36,542
税収等収入	14,513	17,180	17,186
国県等補助金収入	6,231	9,660	13,846
使用料及び手数料収入	308	1,016	3,223
その他の収入	719	1,595	2,287
臨時支出	35	35	35
臨時収入	-	-	4
業務活動収支	2,326	3,742	4,418
【投資活動収支】			
投資活動支出	2,114	3,025	4,509
うち公共施設等整備費支出	1,113	1,974	3,414
うち基金積立金支出	951	1,001	1,044
投資活動収入	850	995	1,408
うち国県等補助金収入	128	160	428
うち基金取崩収入	478	478	517
投資活動収支	-1,264	-2,030	-3,101
【財務活動収支】			
財務活動支出	718	1,914	2,102
うち地方債償還支出	703	1,855	2,040
財務活動収入	414	457	1,011
うち地方債発行収入	414	457	1,009
財務活動収支	-304	-1,456	-1,090
本年度資金収支額	758	255	226
前年度末資金残高	550	1,513	3,048
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	13
本年度末資金残高	1,307	1,768	3,287
本年度末歳計外現金残高	270	270	274
本年度末現金預金残高	1,577	2,038	3,562

※記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計と一致しない場合があります。

※科目の内訳を一部省略して表示しています。

4. 指標分析（一般会計等）

4. 1 財務書類分析の視点

分析の視点	住民等のニーズ	指標
資産形成度	将来世代に残る資産はどのくらいあるか	> 住民一人あたり資産額 > 歳入額対資産比率 > 有形固定資産減価償却率
世代間公平性	将来世代と現世代との負担の分担は適切か	> 純資産比率 > 社会資本形成の世代間負担比率
持続可能性 (健全性)	財政に持続可能性があるか (どのくらい借金があるか)	> 住民一人あたり負債額 > 基礎的財政収支
効率性	行政サービスは効率的に提供されているか	> 住民一人あたり行政コスト
自律性	歳入はどのくらい税金でまかなわれているか（受益者負担の水準はどのくらいなっているか）	> 受益者負担比率

※住民一人あたりの指標は、令和4年4月1日における住民基本台帳人口（60,352人）を用いて計算しています。

4. 2 資産形成度

資産形成度は、これまで長久手市が「どのくらい資産を形成してきたか、将来世代に残る資産はどのくらいあるか」といった住民等の関心に基づく度合いを表します。

I 住民一人あたり資産額

資産額を住民基本台帳で除して住民一人あたり資産額を算出することにより、住民等にとってわかりやすい情報となるとともに、他団体との比較が容易になります。

$$\text{算定式：資産総額} \div \text{人口} = 204.0 \text{ 万円}$$

II 歳入額対資産比率

当該年度の歳入総額に対する資産の比率を算出することにより、これまでに形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するかを表し、地方公共団体の資産形成の度合いを測ることが可能となります。

$$\text{算定式：資産総額} \div \text{歳入総額} = 5.2 \text{ 年}$$

Ⅲ 有形固定資産減価償却率

有形固定資産のうち、償却資産の取得価額等に対する減価償却累計額の割合を算出することにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することが可能となります。

$$\text{算定式：減価償却累計額} / \text{償却資産取得価額} = 52.8\%$$

※物品を除く

4. 3 世代間公平性

世代間公平性は、「将来世代と現世代との負担の分担は適切か」といった住民等の関心に基づくもので、貸借対照表上の資産、負債及び純資産の対比によって明らかにされます。

I 純資産比率・社会資本等形成の世代間負担比率

(1) 純資産比率

資産総額に占める純資産の割合を表したもので、負債を将来世代の負担、純資産を過去から現世代が培ってきた正味の財産として、世代間の負担の配分をみます。数値が大きいほど、現世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資源を蓄積したことを意味します。

$$\text{算定式：純資産} / \text{資産総額} = 90.7\%$$

(2) 社会資本等形成の世代間負担比率（将来世代負担比率）

社会資本等について将来の償還等が必要な負債による形成割合を算出することにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比重を把握することが可能です。

$$\text{算定式：地方債残高（※）} / \text{有形・無形固定資産合計} = 8.9\%$$

※地方債残高（附属明細（地方債借入先別）から以下を控除したもの

- イ 臨時財政特例債
- ロ 減税補填債
- ハ 臨時税収補填債
- ニ 臨時財政対策債
- ホ 減収補填債特例分

4. 4 持続可能性（健全性）

持続可能性は「財政に持続可能性があるか（どのくらい借金があるか）」という住民の関心に基づくものであり、財政運営に関する本質的な指標を表します。

I 住民一人あたり負債額・債務償還可能年数

(1) 住民一人あたり負債額

負債額を住民基本台帳人口で除して住民一人あたり負債額とすることにより、どのくらい借金があるのかをわかりやすく示し、他団体との比較を容易にします。

$$\text{算定式：負債総額} \div \text{人口} = \underline{19.0 \text{ 万円}}$$

II 基礎的財政収支（プライマリーバランス）

資金収支計算書上の業務活動収支（支払利息支出を除く）及び投資活動収支の合算額を算出することにより、地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債等発行収入を除いた歳入のバランスを示す指標となります。当該バランスが均衡している場合には経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債等の比率は増加せず、持続可能な財政運営であることを示します。

$$\text{算定式：業務活動収支（支払利息支出を除く）}$$

$$+ \text{投資活動収支（基金積立及び基金取崩を除く）} = \underline{15 \text{ 億 } 8,826 \text{ 万円}}$$

4. 5 効率性

効率性は、「行政サービスは効率的に提供されているか」といった住民等の関心に基づくもので財政の持続可能性と並んで住民の関心が高い指標です。

I 住民一人あたり行政コスト

行政コスト計算書で算出される行政コストを住民基本台帳人口で除して住民一人当たり行政コストとすることにより、地方公共団体の行政活動の効率性を測定します。

$$\text{算定式：純行政コスト} \div \text{人口} = \underline{34.1 \text{ 万円}}$$

4. 6 自律性

自律性は、「歳入はどのくらい税金等で賄われているか（受益者負担の水準はどうなっているか）」といった住民等の関心に基づくものです。これは、地方公共団体の財政構造の自律性に関するものであり、行政コスト計算書の使用料・手数料などの受益者負担の割合を算出することで受益者負担水準の適正さの判断指標として用います。

I 受益者負担比率

行政コスト計算書の経常収益と経常費用を比較することにより、行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を算出します。

$$\text{算定式：経常収益} \div \text{経常費用} = 4.7\%$$



令和3年度 長久手市 財務書類分析報告書

長久手市 総務部 財政課

〒480-1196

愛知県長久手市岩作城の内 60 番地 1

電話 0561-63-1111 (代表)

FAX0561-63-2100

E-mail :zaisei@nagakute.aichi.jp